

木の実幼稚園(松山市西垣生町)の園児の保護者有志が、3月の卒園式で園児らが胸に着けるコサージュ作りを励んでいる。30年以上続く取り組みで、今回も教職員と合わせて計約120人分を制作。保護者らは「幼稚園最後の思い出と、コサージュに込めた思いを大切にしてもらえよう」と願いながら仕上げている。



歴代の保護者有志が30年余りの間に制作したコサージュ

伝統コサージュ 卒園の思い出に

コサージュのモチーフやデザインは毎年変わり、2025年度は初めてバラを選んだ。生地を淡いピンクで染色、裁断して

バラをモチーフにした
2025年度のコサージュ



松山 木の実幼稚園

保護者制作 30年超 今年はバラ 120人分



談笑しながらコサージュ作りに励む園児の保護者

男女で色味を変え、教職員用は別のデザインにするなど細部にもこだわっている。

制作メンバーの保護者12人は、25年5月からデザイン選定や材料調達に携わり、週1回程度、園で作業を続けてきた。1月29日は5人が集まり、それぞれがこつを伝え合いながら、にぎやかに手を動かした。

長女が卒園する高木真美子さん(42)は、長男が通園していたころから約5年間、参加してきた。「ほかの保護者との交流の機会になるし、自分の分も作れば、子どもと同じものを着ける楽しみがある」と話す。

園によると、例年コサージュの評判は良く、小学校の入学式で使う保護者もいるという。中矢謙一郎理事長は「何カ月もかけて準備してくれてありがたい」とし「式後も保管してもらい、いつの日か『多くの人が君のことを大切に思い、このコサージュを作ってくれたんだ』と感じてくれれば意義深い」と語った。

(高橋圭太)